

## 第499回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 平成31年3月6日(水) 午前10:30より

2. 開催場所 長野放送本社会議室

3. 委員の出席 ○委員総数 8名  
○出席委員数 8名  
○出席委員の氏名(敬称略・委員は五十音順)

委員長 林 新一郎

副委員長 渡辺 重久

委員 荻原 健司

委員 春日 十三男

委員 加藤 恵美子

委員 笹本 正治

委員 佐藤 裕一

委員 田中 宏昌

○欠席

なし

○放送事業者側出席者名

外山 衆司 (代表取締役社長)

矢澤 弘 (取締役報道制作担当)

飯塚 憲彦 (取締役編成・業務推進・放送番組審議会担当  
業務推進局長)

柳沢 浩之 (編成局長兼放送番組審議会事務局長)

上小牧 忠道 (編成局次長兼編成部長兼視聴者室長)

春原 晴久 (報道制作局長) 番組プロデューサー

4. 議題

(1) 番組審議

『NBSフォーカス∞信州 歴史シリーズ10』

## ～信濃国の明治維新～』

(平成30年12月7日金曜日午後7:00～7:57放送)

(2) 視聴者対応報告 (平成31年2月分)

(3) その他

### 5. 議事概要

(1) 番組審議

- ・信州における明治維新を、3つの話を柱に非常に分かりやすく、バランス良く構成して伝えた。
- ・メディアで扱ったことがほとんどない「飯山戦争」について掘り下げた。
- ・若い学芸員を起用し、一般の人にも分かりやすい説明だった。
- ・地方の小さな藩が明治維新の動乱期にどう悩み、戸惑ったかが良くわかった。旧幕府側につくのか、新政府側につくのか、その悩みまで具体的に掘り下げた。
- ・『NBSフォーカス∞信州』の歴史シリーズは今回で10回目となるが、様々なテーマを切り取り、内容に厚みが出てきた。
- ・明治維新は信州とはあまり関係がないと思っていたが、ごく身近なところでこれほどまでに大きな変化を伴っていたことに驚いた。初めて知ることが多く、故郷の歴史をいかに知らないか思い知らされた。
- ・明治が始まって150年という節目で、番組として時宜を得た企画。
- ・歴史に明るいタレントを起用し、明るさと柔らかさを演出して、難しい歴史の話題に関心を向けさせた。また服装も工夫していた。
- ・幕末の歴史資料、特に行政文書や引き継ぎ書まで取材したことは賞賛に値する。

- ・明治維新も、場所により、また関わり方によってこれほど見方が変るといふ、多様な物の見方を提示した。
- ・3つの話のつなぎ部分に工夫が欲しかった。
- ・松本城が幕末に壊されなかった事情は分かったが、他の多くの城はどうだったのか触れて欲しかった。
- ・「飯山戦争」で大火の話はあったが、一般庶民に犠牲者は出たのか、どのような被害が具体的にあったのかを知りたかった。
- ・歴史に詳しいタレントの起用はいいが、より良く説明できる部分があった。
- ・番組最後の部分で松本の「旧開智学校」を紹介したが、それまでの流れとは違い、蛇足の感がある。
- ・非常に良く歴史資料に当たり、良く勉強して作られた番組であることは認めるが、安易に話を結び付けている部分もある。視聴者に誤解を招かないように慎重に表現した方がいい部分があった。たとえば、江戸時代には「信濃国」という行政組織はなかったので、「長野県」＝「信濃国」ではないこと、など。
- ・番組に登場する人は、男女バランス良く起用を心掛けて欲しい。学芸員には女性で優秀な方もいるので次回はその辺りを意識して欲しい。

## (2) 視聴者対応報告

資料に基づき平成31年2月分の視聴者対応について編成局より報告を行った。

## (3) その他

連絡事項

以上